

第25回 現代世界の系統地理的考察

■■ 生活文化、民族・宗教編 ■■

世界の違いと共通に目を向けてみよう (2)

～国家、民族・領土問題～

監修・講師
内藤正典

学習のねらい

国家というものをつくっている3つの要素は、主権、国民、領域。主権というのは自分の国のことは自分で決められることができるという最高の権利のことをいう。国民というのは、国家を構成して国のありかたを決めるメンバー、領域というのはその国が支配できる地域のこと、国境線によって仕切られた内側。世界は、国家によってつくられているが、必ずしも、国家と国家の関係は安定していない。どのような問題があるのかを考えていこう。

今回のポイント

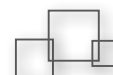
- 国と国の境とは？
- 民族と領土をめぐる争い
- 共生に向けた取り組み

■■■ 国と国の境とは？ ■■■

国と国の境を国境という。国境の内側では、その国の国民は自由に移動できるが、国を越えて移動するときには、まず自分の国の国民であることを証明する書類（パスポート）を持っていないといけな。そして、訪問する国から「入国していいですよ」という許可にあたる査証（ビザ）を取るのが原則。その手続きを簡単にするために、国と国との約束でビザを廃止することもある。EU（ヨーロッパ連合）のように、加盟国の間では国境線を自由に越えられるようにする新たな取り組みもあるが、中東（西アジアと北アフリカ）での紛争が原因で、多くの難民が殺到したことによって、再び、国境線の管理を厳しくする方向になりつつある。

■■■ 民族と領土をめぐる争い ■■■

国民がおなじ民族で構成されているなら、民族間の紛争は起きにくい。しかし、現実の世界の国々は、同じ民族が複数の国にまたがって暮らしているケースが多い。これは国が成立するときの歴史的な経緯による。そのため、ひとつの国の中で多数を占める民族、または政治的、経済的な力の強い民族が他の民族を圧迫してしまうと紛争が起きる。また、国境線の確定が平和な話し合いでできるとは限らない。隣接する国どうしが、お互いに自国の領土だと主張すると、領土紛争が発生する。領土問題はしばしば戦争にまで発展することがある。



■■ 共生に向けた取り組み ■■

宗教や民族の違いというのは、優劣をつけて考えたり、ひとつの民族が他の民族を支配したりすると、対立や紛争を生む。平和な世界をつくっていくためには、このような対立が激しい戦争になるまえに止めることが必要である。第二次世界大戦後につくられた国際連合は、そのための国際的な機関である。しかし、国際連合は国と国との紛争については、ある程度止めることができたが、民族や宗教をめぐる争いを止めることはできない。それは、国際連合が主権を持つ国家からできているためで、主権がない少数民族や、そもそも主権とは関係のない同じ宗教を信じる人たちの集団は、国際連合に紛争の調停を要求することができないからである。

